

心と心のつながり 《同朋社会の私たち》

ほうねんしようにん

法然上人 (19)

親鸞聖人と法然上人 3



吉水よしみずの法然上人ほうねんしようにんの門下もんかに入られたとき親鸞聖人しんらんしょうにん二十九歳、そして法然上人、六十九歳のときでありました。親鸞聖人の入門以前から、すでに高名こうめいのお坊さまたちがお弟子として入門されておられ、約三百八十人いたお弟子の中なかにでも末弟まへていの方かたでありました。しかし、法然上人の書かれた、「選せん撰せん本願念仏集ほんがんねんぶつしゅう」の書写しよしゃをゆるされ、親鸞さまのその頃のお名前「釈綽しゃく空くう」と法然さまが自らお書き加えられたというほど認みとめておられました。

法然上人ほうねんが九条関白くじょうかんぱく殿下てんかをお訪ねたずになるときなどにも、お伴ともをされるようにもなつたといわれています。

◆「信の座、行の座」の話

入門にんもんされて数年すねんたったころ、門前もんぜん市いちをなす、のたとえのように、吉水よしみずの草庵そうあん前まへには、町民ちやうみんも武士ぶしも貴族きぞくも、入り交まじって法然上人のお説法せっぽうを聞くためにたくさんの方が毎日まいにち来きられていました。しかし、多くのお弟子の中なかにでさえ、

師しの法然上人ほうねんしょうにんの教えを、本当に分わっているのだろうか、分わっているのは数人かずにんのように、善信坊ぜんしんぼう(親鸞聖人しんらんしょうにん)には思われました。あるときこんな議論ぎろんがありました。

先輩せんぱいのお弟子でしの中に、師しの法然上人の信心しんじんと、我々われわれのようにに師しより学問がくもんや知識ちきしきも劣おとった者と、まったく同じ「信心しんじん」だ、というのは勿体もちたいないし、同じはずがない、と言いい張はる人ひとたちがいました。他のほとんどのお坊さんもそのようでありました。善信坊ぜんしんぼうは僧そうではない、師し、法然さまの信心しんじんも善信坊ぜんしんぼうの信心しんじんも何なにら変かることなく、一つである、と。それなら、そのことを師しの法然上人にお聞きしよう、ということになりました。

そこで各々おのづかは、「信心には変わりがない」「(信の座)という側がわと、「一人一人積つんできた修行学問しゆぎやうがくもんによって差さがある」という側がわに分わかれて座ざつた。すると、法然上人は「信心には変わりがない」「(行の座)側がわにお座ざりになられた。

親鸞しんらんさまは、自分おのれと師しの法然さまが同じだけの学問がくもんや修しゆ業ぎやうを積つんだとはゆめゆめ思おもってもない、しかし、阿弥陀あみだ如来にがひが、智慧ちえのある者ものもない者ものも、身分身分の上下じやうげ、男おとこと女めづめ、若い人若いと年配ねんぱいの人ひととかの一切いっけつの差別さべつなく、本願ほんがんを信じ念仏ねんぶつを申まをすものを平等びやうどうに救すくう、ということは、親鸞聖人しんらんしょうにんはだれであつてもゆづらなかつたのです。(つづく)